

# 第14回利賀ダム建設事業監理委員会資料

資料－1 利賀ダム建設事業の概要

資料－2 第13回委員会の審議結果

資料－3 事業の実施状況等に関する事項

資料－4 利賀ダム建設事業の事業費について

参考－1 補足資料

# 利賀ダム建設事業の事業費について

北陸地方整備局 利賀ダム工事事務所

## 2. 利賀ダム建設事業 事業費変更(案)の概要

### 1)変更内容

利賀ダム建設事業においては、現在の進捗状況を踏まえて精査した結果、以下の要因により事業費の変更が必要。

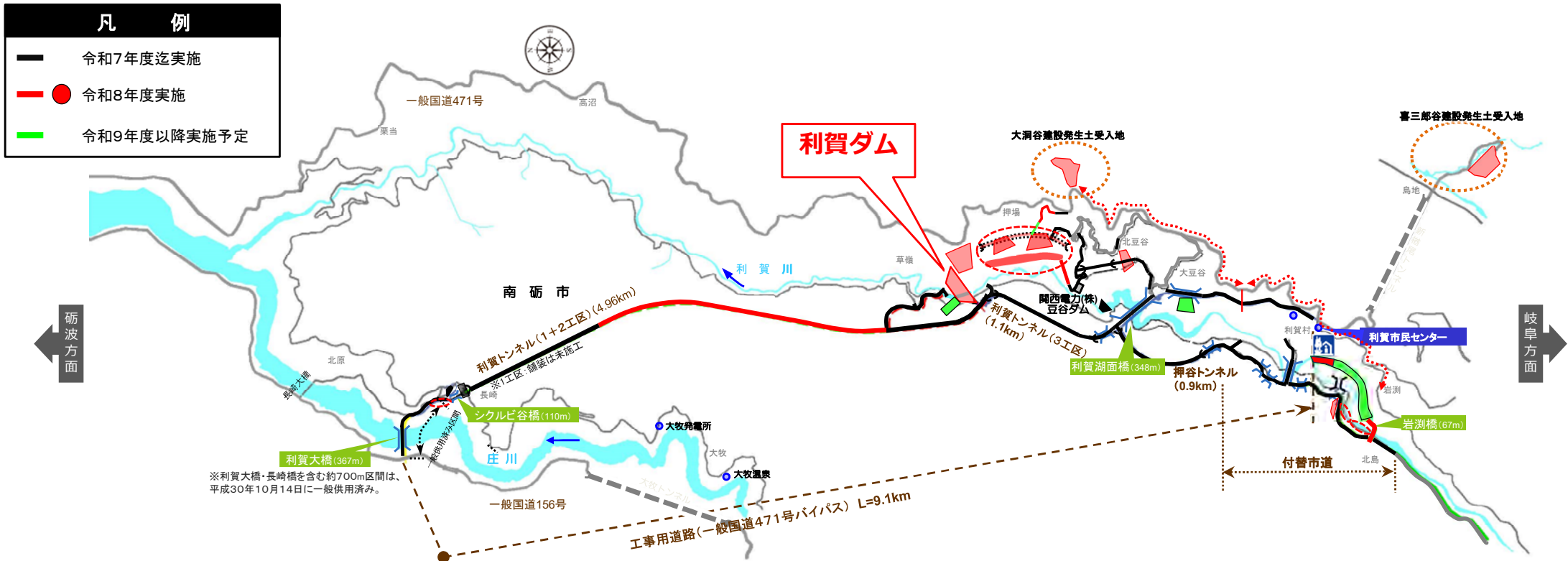
- 第2回計画変更以降に生じた物価の上昇等の社会的要因の変化、令和6年1月の能登半島地震等の自然災害に係る要因への対応、現場条件の変化等による変更が必要になり、コスト縮減の工夫をしても事業費の変更が必要。

### 2)事業費変更(案)

約1,640億円 → 約2,610億円 (約970億円増)

なお、工期については、変更はなく令和13年度の完成を目指してまいります。

### 3)その他(事業進捗状況等)



## 2. 利賀ダム建設事業 事業費変更(案)の概要

### ◆建設に要する費用の変更

約 1, 640 億円 → 約 2, 610 億円 (約 970 億円増)

(内訳) I 物価の変動など社会的要因の変化によるもの	約 501 億円
1. 公共工事関連単価の変動	約 420 億円
2. 工事積算基準の変更	約 82 億円
II 自然災害に係る要因によるもの	約 20 億円
1. 令和6年1月能登半島地震以降の崩落に伴う横坑閉塞方法の見直し	約 5 億円
2. 令和7年2月の雪崩に伴う工事用動力計画の変更	約 15 億円
III 現場条件の明確化による見直し	約 323 億円
1. ダム本体骨材調達方法の見直し	約 14 億円
2. 現地条件の変更等によるダム本体の見直し	約 19 億円
3. 押場貯水池斜面法面工の工法見直し	約 189 億円
4. トンネル掘削実績を踏まえた見直し	約 38 億円
5. 特殊補償への対応による見直し	約 34 億円
6. 付替市道や工事用道路における法面对策費用の追加	約 14 億円
7. 安全対策等の見直し	約 15 億円

※上記金額は、コスト縮減を見込んだ上での金額です。

IV コスト縮減 ▲ 約 72 億円

V リスク対策費 約 126 億円

(将来の事業費の変動要因への対応として残事業費の10%を計上)

◆工期 令和13年度 (変更なし)

※端数処理の関係で合計が合わない場合がある。

# 3. 工期について

■ 完成までの工程を精査した結果、現計画の工期は変更なし。



■ 現計画   
 ■ 変更計画   
 
■ ■
 クリティカルパス

## 4. 今後の事業進捗における留意事項

- ◆ 今後も現場条件の変化や物価上昇等の社会情勢の変化が全体事業費に影響を及ぼす可能性があることから、新技術の活用などによる更なるコスト縮減への最大限の努力を行いながら適切な事業監理に努める。
- ◆ 今後事業の最盛期に入ることから、各現場においてリスク管理を十分に行い、必要な安全対策を確実に実施したうえで、適切な安全管理および工程管理に努める。